第 227 回「言葉の院外処方箋」

新渡戸稲造記念センター 長 樋野興夫

大きな愛を込めて ～ 思いやり慈しむ ～

2024 年 1 月 5 日筆者は理事長として恵泉女学園の新年礼拝に出席した。 教職員 100 人以上が参加されていた。 筆者は『挨拶』の機会が与えれた。

【2023 年末の Bethlehem(ベツレヘム ペンシルベニア州)に在住の Wife の姉夫妻宅で、Lakewood(レイクウッド カリフォルニア州)に在住の娘家族、グランドラピッズ（Grand Rapids ミシガン州）に在住の娘家族も来訪し貴重な時間を共に過ごしたこと、wife の両親が住んでいたエマオ（Emmaus, ペンシルベニア州）も訪問したこと、『エマオへの道：エルサレムから 11 キロメートル余り離れたエマオという村に行く途中であった。―――、私たちの心はうちに燃えていたではないか。』(ルカによる福音書 24 章 13～35 節)】をさりげなく語った。

さらに、2024 年の元旦(1 月 1 日)の、石川県『能登半島地震』のことも触れた。【1933 年 3 月 3 日には 三陸で地震の大災害があったと記されている。 その時、 新渡戸稲造(1862-1933)は 被災地 宮古市等沿岸部を 視察したとのことである。 その惨状を目の当たりにした 新渡戸稲造は『Union is Power』(協調・協力こそが力なり）と 当時の青年に語ったと言われている。 まさに 今にも生きる言葉である。 『時代の波は 寄せては返す』を痛感する元旦となった 】ことも述べた。

他を思いやり慈しむ心
常に高い目標を目指して努力し続ける姿勢

人の欠点を指摘する要はない
理由があっても腹を立てぬこそ非凡の人
相反する人の存在を認める
協調協力こそが力なり
小さな事に大きな愛を込めて
人生の目的は品性を完成するにあり(画像)

『教育者の原点を確認』する新年(2024 年)礼拝となった。

Hino kio

巻頭 ことばの処方箋 4

人生の目的は品性を完成するにあり

つらい治療を終え、やっと職場復帰してみたら、責任あるポストを同僚に奪われていた。会社に裏切られた思いだとおっしゃる患者さんがいました。その方に私はこの言葉をお伝えしました。品性とは、人格であり人としての品位です。世間の評価や仕事での昇進などに関係なく、目の前のことに懸命に取り組み、それによって人が喜んでくれることで品性は磨かれていきます。後日この患者さんは、会社の上司に自分が休んでいた間仕事をフォローしてくれたことへの感謝を伝え、同僚を補佐することを申し出たそうです。

困難が襲いかかったとき、品性の完成に向けて謙虚に生き続ける姿こそ美しいし、そこに希望が生まれると私は思います。

樋野興夫（ひのおきお）

1954年、奈良県生まれ。慶大堂大学名誉教授、新潟県福祉記念センター長、医学博士。米国フォックスチェイスがんセンター、がん研究所病理部部長等を経て慶大堂大学医学部病理・腫瘍学教授に。2008年、「がん哲学外来」を開設。高松宮妃癌研究基金学術賞（2003年）、朝日がん大賞受賞（2018年）。「いい関係で生きる」（小学館）、「がん哲学外来へようこそ」（新潮社）など著書多数。